

令和3年度経営評価委員による年度末評価

◎：よい点 ◇：期待・継続の要望 ■：改善点・助言

1 令和3年度事業についての意見・感想

| | |
|-------------|--|
| 経営全般 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 令和2年度に経営評価で要望されたことが意識されており、経営改善に対する前向きな姿勢が感じられる。 ◎ ICTの活用や不登校問題、発達障がい、教育相談など学校現場の喫緊の課題に対して積極的に対応している。 ◎ コロナ禍でもオンライン等の方法を取り入れ、研修等の事業をできるだけ中止にせず継続して実施している。このノウハウや工夫を生かし、今後、コロナ禍が終息した後もオンラインの良さはそのまま事業経営に積極的に活用し、働き方改革の中、教員の負担をできるだけ減らしつつ、教職の効果的な高度化に努めていただきたい。 ◎ 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止の対応で困難を極めた一年だったと思われる。さまざまな研修が思いどおりにはいかない状況の中で、全所員による適切で柔軟な対応により、本県教員の資質向上の取組みが途切れることなく実施されたことに、心より感謝申し上げる。オンライン研修など、できうる最大限の工夫によって実施してきた成果が、各学校に還元されていると実感している。先生方からは、「研修によって、自信がもてた。」「オンラインであっても他校の先生方と繋がりができ、ありがたかった。」という声を多数聞いている。 |
| 研修事業 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ コロナ禍1年目における知見を生かし、オンラインでの研修も様々工夫した点が評価できる。対面とオンラインのメリット・デメリットを整理し、現場にも発信していただけると大変ありがたい。 ◎ コロナの感染状況を踏まえつつ、研修の対象や内容に応じてオンライン型や集合型等の使い分けを上手にしていると感じる。 ◎ 受講者アンケートを見ると、受講者の満足度が極めて高く、質の高い研修を提供いただいていることが窺い知れる。なお、興味深い点としては、オンライン型よりも集合型の方が満足度が高いのは予想の通りだが、同じ集合型でも講師はオンラインの方が満足度が高いのは意外であった。講師側にとっては聴衆の反応が体感できないという欠点はあるものの、受講者にとっては臨場感の点でも遜色なく、むしろ著名な講師の研修を受けられる可能性が広がるという意味で、メリットが大きいのかも知れない。 ◎ コロナ禍で多くの集合型研修はできず、課題を指摘されてはいるもののリモート型で研修を行うことができたことは、対象者の専門性向上に繋がっている。 ◎ 今年度より、事務職員に研修の門戸を開いていただいたことに感謝申し上げます。事務職員は、今後、若手職員（それも高卒の新規採用）が急速に増えていく見通しである。教員と同様に、各校でチーム学校のメンバーとして活躍している事務職員の研修の担保は必要不可欠である。 ◎ コロナ禍の中、オンライン研修の開催や各種教育コンテンツの配信などは、現状を捉えた研修であったと高く評価できる。アフターコロナにおいては、基本的に対面式の研修が大切であるとの認識には変わらないが、働き方改革の一助として、教職員の研修を担保する研修方法として、ICTを活用した研修は今後とも必要とされるであろう。更なる充実にご期待申し上げます。 ◎ 初任者研修の見直しが図られてから、働き方改革の面や初任者の負担軽減という面で、各学校よりその配慮に対する感謝の声があがっている。また、研修の機会を活用して、若手教員の悩みや心の声を拾うなど、本県喫緊の課題についても対応していただいていることに感謝したい。 |

- ◎ コロナ禍の中、感染予防を徹底した中での研修の実施やオンラインの活用など、きめ細やかな対応に感謝申し上げる。
- ◎ ICTを活用した研修会や会議の持ち方に関する助言は、大変ありがたかった。予想するに、学校現場では今後益々必要になってくることと思われる。
- ◎ ICTの活用に関しては、「ICTを活用した授業づくり講座」の動画をホームページにアップするなど、今必要とされる情報の提供に迅速に取り組んでいただき、大変有り難い。
- ◎ コロナ禍における研修事業について、オンラインを有効に活用し、教員の研修の機会の確保に努めていただいた。
- ◎ 初任者研修や経験者研修において、県教育センターの担当者と適宜情報を共有し、連携を図って研修を実施することができた。
- ◎ 「出前サポート」(4～11月)の数が予想よりも多かった。コロナ禍の中で、指導主事を研究会等に積極的に派遣していただいたことに感謝したい。
- ◎ センターのHPが年々充実してきており、「センターHPで、興味・関心に応じて研修してみよう」というテーマで、1時間程度の時間を確保すれば、個別最適な研修ができ、さらにその後、教員各々の関心・能力に応じて学びが広がり深まりそうである。管理職は、教員の自主研修につなげるようなセンターの取組みを、所属職員に紹介・推奨していかなくてはならないと改めて感じた。
- ◇ 初任者の研修について、初任者には研修そのものも大切ではあるが、同期の者と顔を合わせて普段の様々な思いを打ち明け合うことも大事な時間なのだろうと改めて感じた。
- ◇ 若手教員を育てる方策を市町村と一体になって考え、取り組む必要性に迫られていると思う。県作成の「若手教員とともに育つ」を根底に、県連小としても取り組みを始めるが、研修の要である「教育センター」の役割に期待する。
- ◇ 「通級指導教室新担当教員基礎研修(LD等)」については、第2回目を教育庁特別支援教育課主催のLD等通級指導担当者研究協議会との合同開催をさせていただいた。コロナ禍のため、Web会議システムを活用した開催となったが、研修対象者の経験の有無に関わらず必要な研修内容(授業研究会、授業への助言、有識者講話)を計画し、参加者の満足度を高めることができた。貴センター担当課との事前の打合せや双方の研修事業に係る情報交換をさせていただき、感謝申し上げます。貴センター特別支援教育課と当課がそれぞれ行う研修について、今後も打合せや情報交換をさせていただきたい。
- ◇ 「講師がオンラインで受講者が集合型」での講座の満足度が最も高いことがアンケートにより伺えることから、今後も、受講者アンケートを詳細に分析し、受講者の資質・能力の向上につながるよう、研究をお願いしたい。
- 現場では、指導と評価の一体化で授業改善をしているが、評価のあり方への示唆がほしいというのが実感である。県の探究的な学びの評価を含め、複眼的な評価の視点などを研修で取り上げていただけるとありがたい。学力向上のキーポイントは評価である。甘い評価やうやむやな評価では、真の指導改善はできない。評価の手順や方法ではなく、評価規準(資質能力の姿)を明確に示す必要があると思う。県のシンクタンクとして頑張ってください。
- コロナ禍の影響もあったかと思うが、授業づくりに向けた希望による研修生が少なかった。
- コロナ禍において、オンライン型での研修が多くなったが、受講者アンケートの結果からも満足度が昨年度よりも高くなっている。また、集合型研修の方がより満足度が高いという結果からも、今後の新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、より充実した研修形態と研修機会の保障が課題となる。

| | |
|---------|---|
| 研究事業 | <p>◇ 不登校対策の研究成果の発表（公表）を楽しみにしている。</p> <p>■ 不登校対策についての研究も進んでいるようで期待しているが、研究報告やハンドブック等の活用は、まだまだ浸透していないようである。周知を含め、末端までの研究成果の普及を願う。不登校問題は本県の大きな課題の1つである。幼児教育からの見直しや福祉連携も含め、複合的な対策の視点をアピールしていただきたい。</p> |
| 相談・支援事業 | <p>特別支援教育について</p> <p>◎ 12月21日に独立行政法人国立特別支援教育総合研究所と共催で、特別支援教育セミナーをWeb会議システム活用と会場参加のハイブリッド方式で開催させていただいた。特に、準備や当日の運営においては、貴センターの多大なご協力をいただいたことに感謝申し上げます。</p> <p>◇ 通常学級における特別な支援を要する生徒が年々増加していると感じる。発達障がい（グレーゾーン、ボーダーを含む）の生徒及びその保護者への対応や支援の在り方について具体的に研修できる機会を増やしてほしい。</p> <p>■ これまでの協議会でも話題となっていることであるが、ひとつの特別支援学校に複数（～4名）の新規採用者があり、新採研、2、3年次フォローアップ研、教職5年研、中堅研等の該当者が毎年多数となり、対象者の専門性向上の目的は達成するものの、児童生徒への影響、他職員の負担が大きいものになっている。各研修の時期、回数等の検討が必要ではないか。</p> <p>教育相談について</p> <p>◎ いじめ防止について、「保護者連携」「いじめの早期発見・早期対応」「いじめの未然防止」等の支援をいただき感謝している。県PTA連合会では、令和2年度から県内PTA協働参画型発信事業「いじめのない環境をこの山形から」に取り組んでおり、PTAだけでなく県内の企業の皆様からも積極的にご応募いただいている。子どものいのちを守るという原点に立ち返り、引き続き取り組んでいきたい。</p> |
| その他 | <p>◎ 県教育センターの全面的なご協力により、「県小中学校教育研究会理事会」を初めてハイブリッド型で実施することができた。深く感謝したい。</p> <p>◎ いろいろな課題があることを知ることができた。充実した取組みがなされており素晴らしい。ご苦労様でした。</p> |

2 令和4年度への取組みについての意見・感想

| | |
|------|---|
| 研修事業 | <p>◇ 担任力（学習指導力・生徒指導力・特別支援教育力）の育成に関わり、特に若手教員へのオンライン講座を期待したい。イメージを持たせるためには、動画が有効ではないかと思われる。授業研に出向く指導主事等が良しとする場面を見せてほしい。具体を示す努力を惜しまずに工夫改善してほしい。</p> <p>◇ 令和4年度には県立学校においても生徒一人一人に端末が貸与されることとなり、ICT環境が整う。多大な資金を投入して行う事業であるだけに、その成果が強く求められることとなる。ICTの使用自体が目的ではなく、学習効果を高めるためのツールとしていかに有効活用できるかが重要であり、そういった視点での研修講座の更なる充実を望む。</p> <p>◇ 次年度以降も、オンラインの良さを生かし、これまでのやり方にとらわれず、事業の新しい展開を期待する。加えて、最新の教育事情や教員のニーズ調査の結果をふまえて、研修内容や講師を翌年以降変えて行く等、柔軟な企画をお願いしたい。また、ICT教育への対応は、機器や環境の整備だけでなく、教員の資質向上が必須であることから、外部講師の積極的な利用やレベル別研修等、一層の充実をお願いしたい。</p> <p>◇ コロナ禍での今年度の経験を生かして、集合型研修の良さ、オンライン型研修の良さを研修内容に応じて精選し、実施していくことが教職員の資質向上につながると思う。</p> |
|------|---|

| | |
|----------------|---|
| | <p>◇ これまで蓄積してきた「オンライン研修」の知見を生かしながら、働き方改革にも資する研修の在り方をさらに進めていただきたい。</p> <p>◇ 新規研修として、資料4の(3)の「①研修講座と出前サポート」に「言語通級指導教室（ことばの教室）の指導者育成講座」を設けていただいたこと、大変ありがたい。今後、言語障がい通級指導教室を担当する（ことが期待される）教員が受講対象になる。言語能力は新学習指導要領にも示されるよう、学習の基盤となる資質・能力として障害の有無に関わらず、子どもたちへの育成が望まれる。本講座を受講することは通級指導を行う基礎としてはもちろん、通常の学級での指導や他障がいの指導にも有益な内容なので、多くの受講者が参加できるようにPRをしていただきたい。当課においても、機会を捉えて周知に努めたい。</p> <p>◇ 出前講座でICT関連のニーズが増えていることを踏まえ、1人1台端末を活用した学習指導や指導事例コンテンツの充実を図っていただきたい。また、コロナ禍における一時的なオンライン活用のみならず、「学びの保障」「主体的・対話的で深い学び」「協働的な学び」につながる1人1台端末の有効な活用方法の研究や幅広い提案をお願いしたい。</p> <p>◇ 経験者研修対象者のリストアップについては、遺漏のないよう連携をお願いしたい。特に、R3から始まったステージアップ研修、R4から受講対象者が変更になる5年経験者研修については、確実な受講確認を行いたい。引き続きのお願いになるが、教職員課と県教育センターとの連携も十分に図っていただきたい。</p> <p>■ 初任者や若手の先生方のメンタルが気になっている。文科の“教師のバトン”を見ると、先生方の赤裸々な悩みが多く綴られている。初任者や若手の先生方も、面と向かって話できないことをいえるようなオンライン上の場があればと思う。</p> |
| <p>相談・支援事業</p> | <p>特別支援教育について</p> <p>◇ 特別支援教育において、経験のある担当者の退職者が続いており、その後継者の育成が大きな課題となっている。とりわけ、言語通級教室での指導は障がいと言語指導等の理解がより専門的であり、担当者の育成には、教育機関で専門の教員から、ある程度の期間の中での研修が必要である。新年度から『「ことばの教室」指導者育成講座』が始まると聞いている。特別支援学校長会でも大きな期待をしている。「ことばの教室」担当者間でも研修を行っているが、効率的な研修機会のために、その研修内容をご理解の上、県教育センター独自の研修となるよう、ご配慮をいただきたい。</p> <p>◇ 「言語通級指導」については、指導者の専門性を高める側面とともに、一般の教員（特に小学校）にも、その実状・実態を周知するとともに、就学時健診等に最低限必要な言語障がいの知識（構音・吃音）や、通常学級での配慮・支援を学ぶ必要があると感じている。専門性とともに普及の側面も大切にして欲しい。また、言語通級に関する講座をはじめ、特別支援教育に関する研修講座においては、講師依頼の際に「今年度限り」という条件で引き受けてくださった先生方もいらっしゃる。特別支援教育の指導者育成は喫緊の課題と考えるので、今後も継続した講座の開催をお願いしたい。</p> <p>教育相談について</p> <p>◇ 若手教員の学校への不適応やトラブルの増加等の状況を踏まえ、若手教員を指導するだけでなく、悩みに寄り添い、支援する取り組みに期待する。県主催の初任者研修やフォローアップ研修の校外研修の一つとして、県センターの教育相談機能や県カウンセラーを活用した、「若手教員の相談・カウンセリング」などを実施してはどうか。研修計画に位置付けられていることが望ましい。</p> <p>◇ ICT活用で不登校児童生徒の学びの保障や心理的なハードルを下げることに繋がればと、多くの保護者も期待している。県内外の様々な効果的な事例の収集・発信等の取り組みをお願いしたい。</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>その他</p> | <p>◇ 様々な課題に向けた取組みの充実を期待する。</p> <p>■ 昨年度もお願いしたが、評価で使える「探究力」を測ることのできる問題」や教科固有の見方・考え方を測る「問題」を開発できないものか。県学調の問題（ストーリー性による場面の重視）のイメージでは、学校現場でなかなか活用できない。</p> <p>■ コロナ禍の中、教員の多様なニーズに応じた研修を仕組むことは、逆に県教育センター職員の多忙化が進むことにもなると思うので、そのバランスを考慮するとともに、所内の働き方改革を一層推進していただければ幸いである。</p> <p>■ ICTを日常的に使ってきた若手の先生方にICTを担当させている学校が多く見受けられる。そのことを意気を感じて活躍してくれればよいのだが、負担加重にならないように配慮することも必要である。</p> <p>■ 自分自身オンラインの研修（センター研修ではないが）を受けてみて、オンラインの研修を受ける場所の環境も大事だと感じた。学校の中でそうした環境が保障されているか気になった。学校等の受ける側が考えることではあるが、一日の研修など長時間の研修であれば、できれば、在宅でも受講することができればと思った。</p> |
|------------|---|

3 県教育センターへの期待や要望

| | |
|-------------|---|
| <p>経営全般</p> | <p>◇ 経験者研修履歴や教員免許更新制の発展的解消に伴う研修情報の管理について、連携しながら進めたい。</p> <p>◇ 先生方に負担をかけずに、悉皆研修の受講漏れが生じないような方策を取れるようにしたい。研修履歴管理システムの構築とともに、研修講座における電子申請システムのような運用の実現にむけて、引き続き検討願いたい。</p> <p>■ 教員採用試験の志願倍率の低迷が深刻であり、教職の魅力向上につながる事業を長期的視点でぜひお願いしたい。近年、若い先生の自死という悲しい案件が複数出ており、メンターの配置や職場の雰囲気作り等、教員が早期に気軽に相談できる体制の充実を図っていただきたい。大学としても恩師が卒業生をフォローできるようなサポート体制等を検討していきたい。</p> |
| <p>研修事業</p> | <p>◎ いつも質の高い研修を提供していただいていることに感謝申し上げる。今後ともよろしく願いたい。</p> <p>◇ 大量採用の時代に入り若い教員が年々増加している。コロナの感染状況にもよるが、そういった教員が対面で共通の課題について話し合ったり、悩みを相談し合ったりできる機会をできるだけ多く設定してほしい。特に、生徒への対応の仕方や保護者対応など具体的な場面に応じた生徒指導の研修（ロールプレイ等）の機会を増やしてほしい。</p> <p>◇ 令和3年11月に中央教育審議会より審議のまとめ『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて』が出された。これを受けて、今通常国会で教員免許法改正案が可決されれば直ちに教員免許更新制の発展的解消が実現される一方で、令和5年度からは教育公務員特例法の改正により、公立学校の教師に対する学びの契機と機会の確実な提供のため、任命権者が校長及び教員ごとに研修の受講等に関する記録を作成することや、校長及び教員からの相談に応じ、資質向上のための機会に関する情報を提供し、資質の向上に関する指導及び助言を行うことが規定される予定と聞いている。</p> <p>このことに関して、県教育センターには、今後、より現場教員のニーズに合った研修機会の提供をいただくとともに、県教育センター以外が提供する研修に関する情報や、個々の教員が研修計画を立てる際のモデルケースを提示するなど、制度改正後も継続的に本県教員の資質向上が図れるよう、関係各課と連携しながら役割を果たしていただけるよう期待する。</p> <p>◇ せんたんの「授業づくり」リンク集（HP）などについて ICTを活用した授業づくりの実践例など、具体的で活用しやすい資料の掲載は、</p> |

| | |
|---------------------|---|
| | <p>各学校にとって大変貴重なものとなっている。若手教員の授業づくりに係る業務負担軽減のために、さらなる充実を期待する声が各学校から上がっている。様々な業務がある中で失礼なお願いとなりますが、授業づくりの支援に関する内容がさらに充実し、利活用者（利用回数）が増加するようになればと期待している。</p> <p>◇ 貴センターのHPに様々な情報や外部リンク先などを掲載していただくことで、各学校の教員が効率的に情報を探したり、研修をしたりすることができている。教員の働き方について、外部団体等からの要望には、特別支援教育に関する研修コンテンツや情報を求める声もあり、引き続き、HPでの発信にご期待申し上げる。</p> <p>◇ Web ページのより一層の充実に向けた取組みをお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツの充実 ・わかりやすい（探しやすい）構成 ・今年度新たに情報発信していただいた「授業づくりリンク集」「ICT活用・情報教育」の内容充実 <p>■ 県教育センターは、教職員のスキルアップの研修や現況の課題解決に資する研修の提供と同時に、現場の三歩先の研修を構築し、各学校の教育をリードし、牽引する役割が求められていると考えている。以下の2点について、ご検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）について（主に研修） ・「校内フリースクール」について（主に研究） <p>■ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に関する、研修講座の開催を要望する。村山教育事務所では、今年度より社会教育課と連携して各市町教育委員会や学校向けに出前講座を実施した。社会に開かれた教育課程の実現に向けて、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進は必要不可欠な内容であるので、より多くの先生方に地域をつくる人を育てる実践リーダーになっていただくためにも検討願いたい。</p> |
| <p>相談・支援 事業</p> | <p>特別支援教育について</p> <p>◇ 本県の教職員の専門性向上に向け、適切な研修の機会を計画、実施していただき感謝している。とりわけ、特別支援学校の教員の専門性向上については、採用年限や校種毎等に合わせて研修機会を計画していただいている。</p> <p>特別支援学校においては、児童生徒の障がいの重度・重複化、多様化が大きな課題となっている。不登校、問題行動、他傷自傷行為、保護者からの不当な要求等に苦慮している学校も多々ある。複数の障がい種、多様な課題への理解と実践が求められると感じている。学校や児童生徒の実情を基本とした、県教育センターでの研修の充実に期待している。</p> <p>教育相談について</p> <p>■ 若手教員の育成とメンタルヘルス面に関しては、今後も継続した対策が必要な課題と考える。研修講座内容の工夫や、一人で思い悩む教員の相談の機会を増やす、ハードルを下げるための工夫が必要だと考える。</p> |
| <p>その他</p> | <p>◎ 県教育センターを利用した際に感じたことであるが、各階のトイレのパイプまできれいに磨かれていて気持ち良かった。こういったところから、所内の清掃をはじめとする施設・設備の管理がしっかりしていると感じた。</p> <p>◎ 健康に留意され、県教育振興のためにご尽力ください。</p> <p>◎ 山形県の教育発展のために今後ともよろしく願いたい。</p> <p>◇ 特に、やはり今後はGIGAスクール構想により整備された一人一台端末を、児童生徒の個別最適な学びや協働的な学びにどのようにつなげていくかが課題になってくると思われる。併せて、こうしたICTの活用に向けた、センターHPの充実等も願いたい。</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>■ タブレットの自宅への持ち帰りが始まる。家庭学習については保護者としても非常に関心がある。ネット環境や想定されるリスクについても検証を行いながら進めていくことで、安全かつ最適な学習方法が取れる環境ができると思われる。保護者も変わりゆく教育現場の状況をしっかり理解し、子どもの学びをサポートできればと思う。</p> |
|--|--|